



院内検査機器 評価ガイド

院内検査体制の見直しが業務効率化の第一歩





+ + + + + + + + + + +



スムーズな院内検査が 最善の獣医療を支える

動物病院は多忙な日々を追われています。多忙を極める獣医師にとって、時間の有効活用は重要なテーマです。テクノロジーの高度化により、獣医師や動物病院スタッフの業務は効率化され、ストレスも軽減されてきました。また、時間の有効活用により、迅速な診療が実現されつつあります。

効率的な院内検査を導入することで時間と手間が省けるとわかっているにもかかわらず、検査機器の価値を正しく判断し、検査体制の見直しを検討するための時間を確保することさえ難しいこともあります。そこで、現在の業務フローの振り返りや改善が必要な課題の特定に役立つガイドをご用意しました。

正しくテクノロジーを活用することが 診療フローの改善につながります。



獣医療は急速に進歩しています。だからこそ、院内検査機器は診療フローを妨げるものではなく、1日をより効率的にするものであるべきです。IDEXXのテクノロジーは、優れた検査精度だけでなく、面倒な手間を省き、生産性を向上させます。IDEXXの院内検査機器には、多くの強みがあります。例えば、検体をよりスマートに処理する仕組み、エラー発生時の詳細なフィードバック、患者様データの蓄積、IDEXXならではの検査結果解釈サポート機能などがあげられます。

生産性を向上させるうえで、以下のような課題を経験されたことがあるのであれば、IDEXXソリューションをご検討ください。

課題1：避けられないエラー

問題点：検査機器の中には、操作が難しくエラー発生時にどうしても時間をかけざるを得ないものがあります。例えば、検体セット後にスタートを押して他の作業に移ったのに、エラーが起きて検査がされていなかったことはありませんか？時間の浪費になるだけでなく、その検査結果次第で判断が変わってしまう場合、大きなストレスにもなります。

IDEXXのソリューション：IDEXXの検査機器は、様々なテクノロジーで作業時間の短縮や人的なミスを予防し、迅速かつ精度の高い検査結果を提供します。

- + **血液化学検査器 カタリストOne***—検体が正しく読み込まれないことがよくありますが、それではコストもかかり、効率も下がります。検体をセットしてスタートしたつもりでも、適切にセットされていなかったために測定が開始されていないことが後で判明するようなことは避けたいものです。カタリストOneの画像認識システムは、セットされた検体をカメラで確認し、検体セットのエラーを即座に発見します。そして、ユーザーが次の作業に移る前に通知することで、このような事態を予防します。また、エラーの原因も通知されるため、ユーザーが問題の特定に貴重な時間を費やすことはありません。
- + **自動血球計算装置 プロサイトOne***—プロサイトOneにも同様の画像認識システムが搭載されています。セットされたチューブを認識し、検体を確実に吸引できるような調整を行います。ミスがある場合は検査を

進ませないため、貴重な検体を無駄にすることはありません。試薬の使用期限やロット番号を自動で読み取るため、手動でバーコードをスキャンする必要もありません。手入力を減らし、自動化することで時間の節約につながります。

- + **尿沈渣分析装置 セディビュー-Dx***—セディビュー-Dxの画像認識システムは、倒立顕微鏡を使用し、検査にかかる時間を短縮します。画像認識システムが人工知能システムと連携することで、これまで20分かかっていたような検査が、たった3分でできるようになります。

IDEXX カタリスト One 動物用一般医療機器・臨床化学分析装置
IDEXX プロサイト One 動物用一般医療機器・血球計数装置
IDEXX セディビュー-Dx 動物用一般医療機器・尿化学分析装置



課題2: 検査結果の転記や手入力による時間の損失

問題点: 検査結果はカルテに保管する必要があります。しかし、手作業で行うのは面倒な上に時間がかかります。それだけでなく、手作業には人為的なミスの可能性もあります。1日の終わり、疲れて帰ろうとする終業間際には、特に起きやすい問題です。

IDEXXのソリューション: IDEXXの検査機器は、患者情報や検査結果が自動でデータベースに反映される最新技術を活用しており、繰り返し必要な手作業での結果入力が必要ありません。そのため、ミスが起きることはなく、コミュニケーションはシンプルになり、過去の検査結果も簡単に参照できるようになります。また、検査結果は自動でクラウドにバックアップされるため情報を紛失することはありません。

課題3: 時間のかかる古いソフトウェア

問題点: 古いシステムは業務を遅らせることがあり、また、最新技術やアップデートを導入するのに追加費用を請求されるケースもあります。手間だけでなく、コストもかかることとなります。

IDEXXのソリューション: IDEXXの検査機器の場合、最新のアップデートは自動で配信されるため、通知が出たときに「今すぐ更新」を押すだけです。この遠隔モニタリングテクノロジーによって、クラウドを介して機器性能の確認やキャリブレーション、最適化などの調整を自動化することができます。また、ユーザーがトラブルになる前に問題を修正することもできるため、より多くの時間を検査機器やテクニカルな問題ではなく、患者様と向き合う時間に使えるようになります。



課題4:いつも次のステップが明らかになるわけではない

問題点:検査結果を得られても、次にどんな検査を行うか、あるいは患者にとってどんな処置が最善か判断するのが難しいことがあります。判断に迷うときには、同僚に相談したり、オンラインで調べたりすることになりますが、時間はかかりますし、なにより処置をしたり、次の来院を決める妨げにもなります。

IDEXXのソリューション:IDEXXの検査機器には人工知能(AI)で検査結果の解釈をサポートする機能が搭載されています。これにより、自信をもって臨床判断を下し、早期に処置を始めることができます。

+ **完全血球計算(CBC)**—臨床症状が現れる前に、健康状態を把握するためのCBC検査をすることがあります。この際に、信頼できる網羅的かつ精度の高い検査結果を得ることがとても重要です。IDEXXは、AIや機械学習をCBCに活用し、血球細胞のより正確かつ迅速な分類を実現しています。さらに、アルゴリズムに沿って、典型的な異常パターンの検出をサポートします。この技術はプロサイトOneで活用されています。

+ **高度化されたセンサー**—プロサイトOneのAIは、5つの細胞情報を同時並行で取得して解析をします。5つの細胞情報とは、4つのセンサーで検出される情報と、TOF(レーザーの飛行時間)です。センサーとAIによって、細胞断片などの干渉を受けることなく、多様な細胞を分類します。センサーとAIを組み合わせることで赤血球、白血球、血小板の分類性能を強化し、異常パターンの検出をサポートします。

+ **解釈サポート**—プロサイトOneは、診断や検査結果解釈をサポートするためのメッセージ機能が搭載されています。例えばリンパ球減少症など、異常がある場合に通知します。

+ **尿検査**—セディビューDxは、倒立顕微鏡と高性能デジタルカメラを内蔵し、取得した画像をAIで解析します。このテクノロジーによって、手作業で顕微鏡での確認を行う必要がなくなり貴重な時間を節約することができます。さらに、取得した画像は飼い主様に健康状態を的確に説明するための資料としても蓄積されます。





IDEXXテクノロジーの最大のメリットは、 時間を使わなくてよいこと

IDEXXの最先端の技術は多種多様な自動機能を実行するため、獣医師は患者やお客様と過ごす時間を優先できます。このようなテクノロジーの活用は、診療所でのプロセスを円滑で効率的に進めるために複数のポイントで常に監視しているようなものです。ワークフローの遅延が発生する前に、検体の読み込みエラーが認識されます。また品質管理も定期的に行われるため、正確な結果が得られるようになります。診療所がどんなに忙しくても、IDEXXの分析装置で負担を軽減し患者の診療に集中できるようになります。

IDEXX分析装置を活用した時間の節約方法や、迅速な治療を阻む課題の克服方法などをご覧ください。詳細を希望される方は、お気軽にご連絡ください。

[IDEXX化学分析装置の詳細に興味がある>](#)

[IDEXX血液学分析装置の詳細に興味がある>](#)

[IDEXX尿沈渣分析装置の詳細に興味がある>](#)





© 2022 IDEXX Laboratories, Inc. All rights reserved. • 2690412-00_JP • IDEXXのプライバシーポリシーに関する情報は、idexx.comでご確認ください。

*カタリストOne、プロサイトOne、セディビュー Dxは、米国およびその他の国における IDEXX Laboratories, Inc. またはその関連会社の商標または登録商標です。

